

いることから出た言葉なのであろう。そうはいうものの、或る特種な現象を頭にえがいて『野分』という名がついたのかも知れないが、それは解らない。

『野分』という言葉は源氏物語や枕の草紙にもでてくるから、平安朝の頃には既に用いられていたことは明らかである。その後になつても、徒然草にもでてくるし、更に俳句の季題にもなつてゐるから、この言葉は古くから引つづいて、広く、用いられていたわけである。それなら、台風という現象が明らかになったという時に、それを野分と呼ぶことにしてもよかつた筈である。

台風のことが解つて来た時に、それを何と命名するかということが問題になつたのかどうかは知らない。最初に『颱風』と命名された岡田先生は、漢学の素養が深く、江戸趣味の豊かな人だったから、野分という言葉も考慮されたかも知れない。しかし、俳句の季題などの言葉は余りに文学的で、技術や学術用語としての適性にも問題はあろう。これと同じことは、『さみだれ』という言葉がすたれて、梅雨という言葉に統一されたことにも見られるようである。

学 界 消 息

1. 台風第3号

台風第3号(Mary)は、6月2日ルソン島の西方海上で発生、海上を迷走した後、8日夜半頃Cantonに上陸10日頃台湾の北を通過して東支那海に出、屋久島の南を11日06時、父島付近を13日00時に通過、北東に去った。大陸上陸前最低気圧は980mbに達し、CantonからFukienにおよぶ沿岸諸都市、台湾に多大の被害を与え、南九州には豪雨、洪水をもたらした。

2. 台風第14号

台風第4号(Nadine)は6月1日フィリピン東方海上に発生、6月9日12時頃鳥島を通過して北北東に向つて去った。

3. 6月21—22日の豪雨と強風

6月21日夜から22日の朝にかけて、九州、四国、関西、関東にわたり、豪雨があり、各地に被害を出した。前線は大分と熊本南部を通過していたため、大分の雨量は175ミリに達し、その他九州各地で100ミリ以上、洪水のため2,000戸以上が浸水した。

またこれに伴う強風のため、静岡県沖では、かつを船(33トン)が20メートル/秒の風で沈没、また横浜港、川崎港では強風雨のため22日14時まで船の出入が止まった。

4. 台風第5号

台風第5号(Olive)は、6月21日カロリン諸島で発生、西北西に進み、26日12時頃マニラ付近を通過、29日18時頃海南島の北を通過して、大陸に上陸した。フィリピン上陸前最低気圧は950mbに達し、フィリピンでは100名以上ホンコンでは40名以上の死者を出した。

数値予報国際シンポジウム便り(4)

1) 前回便りのシンポジウム講演内容に若干の変更があったので次回に決定版を掲載する予定です。

2) 出席申込みは8月31日までですから、なるべく早日に御申し込み下さい(申込用紙は前号にあり)。